

1 産地の概要

<対象地域> 愛西市

<対象品目> れんこん

<産地の現状・課題>

・愛西市は、全国第5位のれんこん産地である。湛水状態の水田での栽培管理が重労働で、若手生産者の規模拡大のボトルネックとなるとともに後継者の不足が進み、生産量、生産者数が減少している（H20年199名、2,053t→H29年166名、1,407t）。

（課題）

- ・湛水状態の水田を移動しながら、収穫物を傷つけないよう行う防除・追肥作業が重労働で気を使う必要がある。
- ・地力を簡単に把握できず、効率的な追肥作業ができない。



ぬかるむ水田での防除



移動も困難なほど茎葉が繁茂するほ場

2 検討体制

<れんこん協議会構成員と役割>

- ・あいち海部農業協同組合（役割：協議会との連携、省力技術の検証）
- ・愛知県経済農業協同組合連合会（役割：省力技術の検証支援）
- ・愛西市（役割：技術の評価、産地振興支援）
- ・愛知県海部農林水産事務所農業改良普及課（役割：省力技術の組み立て・検証支援）



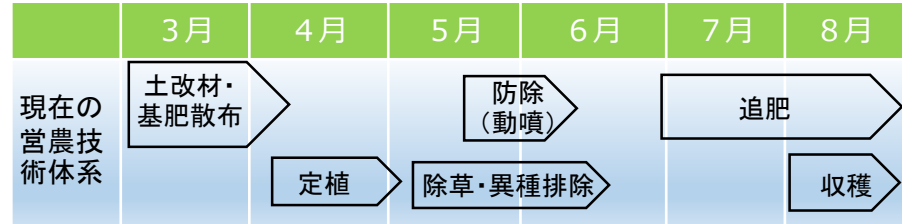
農薬散布用ドローンの検証



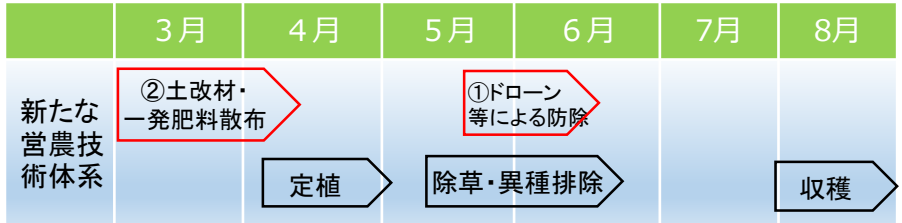
リモートセンシングによる地力把握（上空よりのほ場写真）

3 新たな営農技術体系への転換

ドローン等無人航空機を利用し、空中散布により防除する技術や、リモートセンシング技術を活用した地力診断結果に基づく施肥作業によりほ場に入る必要がなくなり、作業が軽量化・効率化。



- ①省力防除技術 → 無人航空機導入
- ②省力地力診断技術 → 基肥一発肥料導入



<新たな営農技術体系の効果（検証結果及び目標）>

・散布時間【現状】569秒/箇所 → 444秒/箇所※ **約2割↓**

【目標】297秒/箇所※

※無人航空機利用では、面積集積が進むことで時間短縮が期待できる

- ・施肥【現状】地力の把握が困難 → リモセンによる地力の把握の可能性
- 【目標】地力に応じた基肥同時施用

<新たな営農技術体系の今後の取組内容>

